

一般質問通告書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

令和元年8月22日
東村山市議会議長 あて

議席番号 6番
質問者 下沢 ゆきお

記

先の6月定例会での一般質問でも取り上げました、第二保育園廃園後の施設利用について、その後の検討進捗状況と、個人的にも関心の高い防災関連の質問をします。

1. 第二保育園を多世代交流拠点として地域に開放を

6月定例会での一般質問において、第二保育園の跡利用について、組織全体で検討していくと市長からご答弁がありました。6月15日に萩山町で開催されました「市民と市長との対話集会 タウンミーティング」においても、市民から保育園閉園後の利用について、「地域のお母さんから高齢者も含め、コミュニティの場」として、時間をかけずに現状のまま地域に使わせてもらえないか、と質問がありました。

これに対して、市長からは、「市内全体の公共施設の在り方の検討の最中であり、すぐに取り壊して更地にするようなことは現時点で考えていないが、活用については、白紙。どう活用するかは、市民の声を聞きながら検討していく。現に子供たちが保育を受けている施設なので、老朽化しているとしても使えないわけではないので、現状のまま市民の皆様が安全に利用していただけるかどうか年内に点検し、今後、市民の声を聴きながら対応する、と答弁されています。

来年4月以降は空き施設状態となってしまう第二保育園について、全庁的に議論を進めている公共施設の再生と並行し、速やかに施設の点検を行うとともに、市民ニーズにスピード感をもって対応していただきたい。

(1) そこで、その後の全庁的な見地からの検討状況と今後の市としての取り組み方針について、伺います。

2. 自主防災組織の現状と課題

9月1日の防災の日やその前後の防災週間では、各地で防災フェアや防災訓練などが行われており、災害についての認識を深めるとともに、災害発生時における自助・共助の大切さを体得するいい機会でもあります。そこで、防災関連で以下質問します。

- (1) 最初に、市内全小中学校が大規模災害時における避難所に指定されているが、全体で収容できる避難者の受け入れ可能人数はどれだけか。
- (2) 市内には306の自治会が組織されていると承知しているが、そのうち、自主防災組織を結成している自治会はどれだけあるのか、全自治体に占める割合も合わせて伺います。
- (3) 行政が期待する平時における自主防災組織の活動内容と、自主防災組織に対する支援策を伺います。
- (4) 自主防災組織のうち、市の助成金を活用している自主防災組織はどれだけあるのか。
- (5) 防災に強いまちづくりには、消防関係機関の機能の強化・拡充とともに、地域の防災力、自主防災組織の強化は欠かせません。市として、自主防災組織の結成を促す方策をどのように考えているのか、見解を伺います。

3. 災害時における要配慮者への支援

災害時に高齢者や障害のある人など一定の配慮が必要な人に対して、自主防災組織として、どのように対応していくかが課題であり、平時から取り組んでいく大切なことの一つであります。一人暮らしの高齢者、高齢者世帯、要介護状態にある方、障害のある人などを災害発生時にどのように支援するのか、当市では、避難行動要支援者名簿への登録制度を運用してきています。

そこで、以下質問します。

- (1) 避難行動要支援者名簿への登録制度について、その概要と現在の登録状況を伺います。
- (2) 避難行動要支援者名簿の作成・登録方法には、前(1)避難行動要支援者本人の希望により登録する手上げ方式によるものと、行政が保有する情報から作

成するものと、二通りがあると承知しています。本来避難行動要支援者として対象となるであろう者のうちの2割程度しか登録・支援する者に公表することができていない現状を、市としてどのように考えているのか。

- (3) 平時から、要支援者を誰が支援するのか、助けるのか、大規模災害等を想定してしっかりと具体的な支援方法を話し合っ、地域の支え合いを推進していくためにも、登録制度のさらなる周知などによる取り組みが必要と考えます。当市としてこれまでの対応と今後の取り組み姿勢について伺います。

4. 市内全小中学校にかまどの設置を

市内全小中学校に避難所運営連絡会が設置されています。多くの避難所運営連絡会では毎年、行政、消防署、消防団、地元自治会等と連携し、防災意識の向上と地域の防災力の強化を図るため、地域ごとに総合防災訓練を実施しています。

次代を担う子どもたちにとって、地域における防災学習は必須であります。昨年10回目の地域防災訓練を行った萩山町地区では、子どもから大人まで1000名を超える参加者となり、子どもはもちろん、大人も子どもから学ぶことも多くありました。子どもの防災意識を平時から学ぶ機会や環境を準備する観点から、以下質問します。

- (1) 市内でかまどが設置されているのは市内22小中学校のうち、南台小学校だけです。今後設置を進めていく考えはあるのか。
- (2) 大規模災害時における避難所における円滑な避難生活のためにも、また、平時から子どもから大人まで、防災意識の向上のためにも、地域の中心であり地域の交流の拠点でもある市内小中学校全校に是非ともかまどを設置すべきと考えますが、改めて市の見解を伺います。